

# 大美川水系河川整備基本方針

平成 2 5 年 6 月

鹿 児 島 県

# 大美川水系河川整備基本方針

## 目 次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	1
(1) 河川及び流域の現況	1
(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	4
1) 洪水、高潮等による災害の発生の防止または軽減に関する事項	4
2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項並びに河川環境の整備と保全に関する事項	4
3) 河川の維持管理に関する事項	4
2. 河川の整備の基本となるべき事項	5
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項	5
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項	5
(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項	6
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項	6

### <参考図>

大美川水系概要図

# 1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

## (1) 河川及び流域の現況

大美川<sup>おおみがわ</sup>は、沖縄県と鹿児島県のほぼ中間の洋上に浮かぶ奄美大島<sup>あまみ おおしま</sup>の北部に位置し、その源を本茶峠<sup>ほんちやとうげ</sup>に発し、中勝川<sup>なかがちがわ</sup>、戸口川<sup>とぐちがわ</sup>を合わせ東シナ海<sup>ひがし かい</sup>に注ぐ、流域面積 28.3km<sup>2</sup>、幹川流路延長 6.8km の二級河川である。

大美川流域付近の気温は、年平均 21.8℃で、冬季の 1、2 月でも月平均 14℃以上である。年平均降雨量は概ね 2,800 mm 程度であり、全国平均の約 1.7 倍となっている。

流域の地質は、中生代白亜紀の四万十層群からなっており、流域の西部は砂岩<sup>しがん</sup>および同優勢互層<sup>ゆうせいごそう</sup>、中央は砂岩・頁岩互層<sup>けつがんごそう</sup>、東部は頁岩および同優勢互層からなっている。また、大美川沿いにはわずかに沖積世<sup>ちゅうせきせい</sup>の粘土<sup>ねんど</sup>、砂<sup>すな</sup>、礫層<sup>れきそう</sup>がみられる。

流域の地形は、標高 300～500m の山地が連なり平坦部は少なく、山地部では著しい急斜面が発達している。谷底平野となっている低地部は、主に市街地や農地に利用されている。流域の土地利用状況は、全体の 91% が山地で占められており、耕地は 7%、宅地は 2% を占める。山林には、リュウキュウマツ群落が広く分布し、亜熱帯林のリュウキュウアオキースダジイ群集、オキナワウラジロガシ群集、アマミアラカシ群落、スダジイ群落もみられる。

大美川流域内の龍郷町<sup>たつごうちょう</sup>は、空港と奄美市名瀬市街地<sup>あまみ しなせ</sup>へのアクセスの良さから、近年他市町村からの転入者が多く、わずかながら人口が増加しており、国道 58 号沿いに広がる中勝集落には、大型スーパーや自動車関連、食品関連の事業所が建ち並んでいるほか、民間のマンションやアパートが建設され、新興住宅地として注目されている。

大美川の治水・利水・自然環境および河川利用状況の概要は以下に示す通りである。

### ① 治水の概要

奄美大島は台風の常襲地帯であり、過去幾度となく大きな災害が発生している。大美川では、昭和 29～38 年度の復興事業及び昭和 39～48 年度の奄美振興事業により小規模な堤防整備が実施され、大勝橋下流区間<sup>おおがちばし</sup>については、昭和 49 年度から大美川局部改良工事による河道改修に着手し、昭和 60 年度に完了している。

また、中勝川では、朝戸橋下流区間<sup>あさとばし</sup>において平成 4 年度から中勝川局部改良工事による河道改修に着手し、平成 13 年度に完了している。

しかしながら、平成 22 年 10 月 20 日および平成 23 年 9 月 25 日には 2 年連続で時間雨量 100 mm を超える集中豪雨に見舞われ、水系全体で延べ 306 戸に及ぶ甚大な浸水被害が発生したため、平成 24 年度から『大美川・戸口川床上浸水対策特別緊急事業』等による河川改修を行っている。

## ② 利水の概要

大美川の水利用は、古くから行われており、かんがい用水として利用されている。なお、大美川流域においては、近年渇水被害を生じておらず、取水に支障を生じたことはない。

## ③ 自然環境および河川利用状況

上流部は、リュウキュウマツ群落に沿川に連なる山間地を貫流する区間である。陸域には、広範囲にリュウキュウマツ群落が分布しており、水域には、シマヨシノボリやクロヨシノボリ、ヒラテテナガエビ等、回遊性のある魚介類が生息している。中勝川流域では、過去の調査で天然記念物であるルリカケスの生息が確認されている。

中流部は、山間部から流れ出した流路が民家と田畑の間を貫流する区間であり、広<sup>ひろ</sup>キ井堰<sup>いぜき</sup>上流から中勝川合流点の区間には、湛水域が形成されている。陸域にはリュウキュウマツ群落が広範囲に分布しており、河道内にはツルヨシ群落、セイコノヨシ群落やススキ群落が分布している。水域には、シマヨシノボリ、ギンズナ、ミゾレヌマエビ、ミナミテナガエビやイシマキガイ等の魚介類が生息している。また、外来生物であるジルティラピアが確認されている。

下流部は、民家や田畑を貫流する区間であり、感潮区間となる大美川広キ井堰下流の一部区間には、瀬・淵が形成され、河口部には自然裸地が広がる。陸域には、ツルヨシ群落、セイコノヨシ群落、ススキ群落やリュウキュウマツ群落等が分布している。林縁部には、希少種であるヤエヤマネコノチチも生育している。戸口川では、ヤナギタデ群落やススキ群落が分布する他、希少種であるリュウキュウウマノスズクサの生育が確認されている。水域には、ボラ、ミナミクロダイ、ユゴイ等の汽水域に生息する魚介類が生息しており、大美川では、希少種であるヒラモクズガニ、ドングリカノコガイ、サツマクリイロカワザンショウガイ、ナガオカミミガイの生息も確認されている。

大美川流域では、県の河川愛護の啓発等を目的とする、「みんなの水辺サポート推進事業」による支援を受け、地域住民による美化活動等が行われている。

水質に関しては、大美川は環境基準の類型指定はされていないが、BOD 値は A 類型 (BOD 2mg/L 以下) 相当であり、良好な水質が確保されていると考えられる。

## (2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

鹿児島県においては、かごしま将来ビジョンの中に、「安心・安全な社会の形成と県土づくり」、「人と自然が調和する地球にやさしい社会づくり」を目標に掲げ、安全で快適な生活環境の創造を目指している。

大美川水系の整備においても、かごしま将来ビジョンに基づき、関連地域の社会・経済情勢の発展に即応できるよう、河口から一貫した方針のもとに、河川の総合的な保全と利用を図っていくものとする。

### 1) 洪水、高潮等による災害の発生の防止または軽減に関する事項

洪水、高潮等による災害の発生の防止または軽減に関しては、流域内の資産状況・土地利用状況の動向を勘案し、大美川においては年超過確率 1/30 の規模の洪水を安全に流下させることを目標とする。

あわせて、整備途上における施設能力以上の洪水や計画規模を超過した洪水に対しても被害を最小限に止めるため、テレメータによる水位・雨量監視システムを十分活用した、防災情報の提供等のソフト対策の充実に努める。

### 2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項並びに河川環境の整備と保全に関する事項

河川水の利用及び流水の正常な機能の保全に関しては、大美川水系においては、これまで大規模な渇水は生じていないが、農業用水などに利用されていることから、今後は河川流量等の把握に努める。

河川環境の整備と保全に関しては、治水・利水面との調和を図り、流域の動植物の生息・生育・繁殖空間の保全に努める。また、人々に潤いを与える良好な河川景観を保全するなど、地域住民が河川に興味を持ち河川に親しみを感じるような川づくりを進めるとともに、地域と一体となった河川環境整備のための協力体制づくりに努める。

水質については、河川の利用状況、沿川地域の水利用状況、現状の環境を考慮し、関連機関や地域住民との連携を図りながら、水質の保全に努める。

### 3) 河川の維持管理に関する事項

河川の維持管理に関しては、洪水等による災害発生の防止または軽減、水利用及び流水の正常な機能の保全、河川環境の整備と保全の観点から、地域特性を踏まえ適切に行っていくものとする。

また、堤防・樋門等の河川管理施設の機能を確保するため、巡視点検、維持補修などを適切に行う。

## 2. 河川の整備の基本となるべき事項

### (1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

基本高水のピーク流量については、県内河川とのバランスを考慮して、年超過確率1/30の規模の洪水を検討した結果、基準地点の大美橋において370m<sup>3</sup>/sとする。

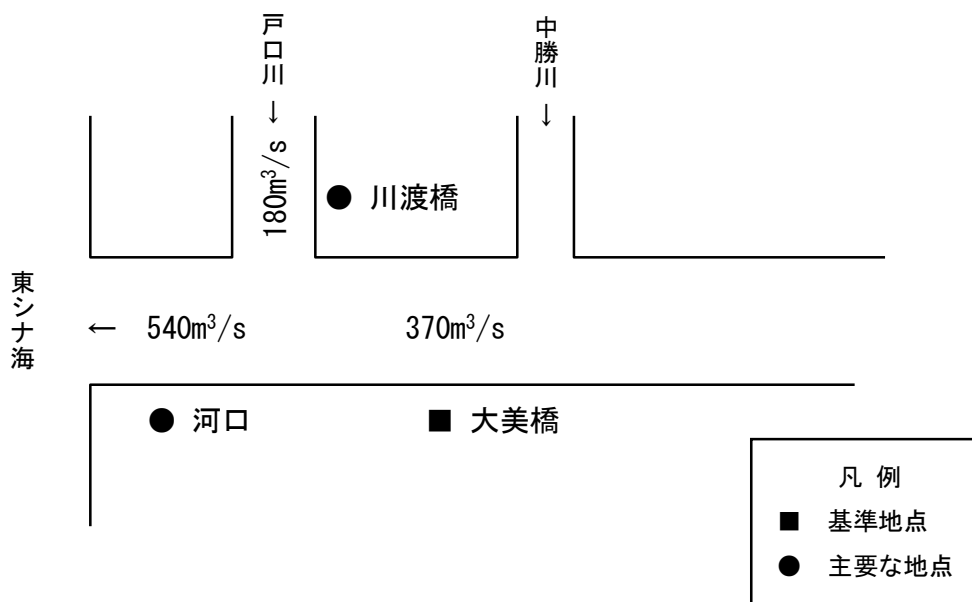
基本高水のピーク流量等一覧表

(単位:m<sup>3</sup>/s)

河川名	基準点	基本高水のピーク流量	洪水調節施設等による調節流量	河道への配分流量
大美川	大美橋	370	0	370

### (2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

大美川における計画高水流量は、大美橋地点において370m<sup>3</sup>/sとする。



大美川計画高水流量図

### (3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

本水系の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は、次表のとおりとする。

主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅一覧表

河川名	地点名	河口からの距離 (k m)	計画高水位 (T. P. m)	川幅 (m)	摘要
大美川	河口	0.00	2.65	73	主要地点
	大美橋	1.75	5.32	43	基準地点
戸口川	川渡橋	0.83	6.26	29	主要地点

(注) T. P : 東京湾中等潮位

### (4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

大美川における既得水利としては、農業用水としての慣行水利がある。

流水の正常な機能を維持するために必要な流量については、利水、動植物の生息・生育及び流水の清潔の保持等に必要な流量について、今後調査検討を行うものとする。



(参考图) 大美川水系概要图

位置图

